Web コンテンツ評価システム

02H129 渡部 玲子

1　はじめに

インターネット上には多種多様な Web コンテンツが存在する。しかし、その中には高齢者や障害のある人に配慮されていない Web ページも存在する。これは高齢者や障害をもつ人に正確な情報を提供できない恐れがある。

そこで、GUI 環境における Web ページをブラウザに表示された状態で誰がみても情報が正確に読み取れるかをチェックするシステムを提案する。このシステムは Web ページのレイアウトを制限するものではなく、自由なレイアウトで作成しつつ、Web ページのバリアフリーを目指したものである。

2　概要

Web ページを画像として扱い、プログラムによってコントラスト値をカウントする。そのコントラスト値から、アクセシビリティに配慮されている Web ページかそうでない Web ページかを判別してメッセージを返す。

既存の単色と単色とのコントラストを表示するシステムと違い、Web ページ全体を画像として評価することにより、画像、背景画像やロゴも含めた全体の評価をすることができる。また、画像なので特定の部分のみを切り取って評価することもできる。

3　考察

- 利点
  - 色だけでコントラストをチェックするのではなく、作成したものを画像として評価するので、ページ全体としての評価ができる。
  - 既存の Web ページでもそのまま評価することができる。
  - 普通の画像として扱うことができるので、評価したい箇所だけを評価することができる。
  - 情報の量や写真の有無によらず評価できる。
  - プログラムは c 言語で組んだので、どの OS でも利用できる。
- 問題点
  - キャプション機能はついていないので、自分で画像として保存しなくてはいけない
  - 淡くて細かすぎる模様に対応していない。
  - ppm ファイルはサイズが大きい。
  - 1 ページずつしか評価できない。
  - 文字数が極端に少ないために、低コントラストのカウントが一定値に達さずクリアしてしまうことがあるかもしれない。

4　まとめ

問題がないのにエラーメッセージを出したケースは殆どなかったことから、Web 上にある Web コンテンツは大体の場合評価できると考えられる。

ただし、大きな問題点がいくつか存在するので、それを改善しなくては実用化は難しい。